



ぐるり庄原 カメラレポート

Look Around Shobara

Camera Report

各地で行われたイベント&話題をお届けします。

REPORT ③

多彩な催しに笑顔広がる 口和健康ふくし祭「わいわいフェスタ」



▲ハンドマッサージで癒される

「ひろげよう 笑顔の輪」をキャッチフレーズに、口和健康ふくし祭「わいわいフェスタ」が10月12日、口和文化ホールヒューマンライツで行われました。健康に関する展示や体力測定などの健康チェック、ハンドマッサージなどの癒しのコーナー、ステージ発表など、多彩な催しに1,500人を越える来場者でにぎわいました。

来場者は、健康チェックで肉体年齢と実年齢との差を見つめ、日ごろの運動不足を反省したり、体力年齢の若さに喜んだりする姿が見られました。ステージでは、各団体の発表をはじめ、親子による体操教室やボクササイズ教室で盛り上がりしました。

会場では、フライングディスク大会やバザーのほか、市の地域福祉計画の「ほっと里山 口和里山倶楽部」の活動紹介が行われ、健康と福祉による「笑顔の輪」を発信しました。

過去の歴史を学び平和を誓う 高暮ダムで「平和の集い」

REPORT ④

第10回を迎える「高暮平和の集い並びに追悼碑前祭」が9月12日、高野町の高暮老人集会所や高暮ダム朝鮮人追悼碑前で開催されました。この集いは、高暮自治振興区が広島在日朝鮮人の人々と一緒に、朝鮮人強制連行の事実を多くの方に語り継ぎ、平和の尊さを学ぶため毎年行われています。

今年は約80人が参加し、元中学校教諭の四車ユキコさんの講演で「高暮ダムの歴史」を学びました。追悼碑前祭では、広島県高等学校平和ゼミナール代表や学生による平和の誓いが行われました。全員が献花し、ダムに向かって「アリラン」を合唱し、犠牲者に祈りをささげました。主催した後藤信房区長は「去年は追悼碑



▲高校生が慰霊碑に献花

に落書きされる事件が発生し悲しい思いをした。差別のない平和な社会を実現するために、これからも強制連行の歴史を語り継ぎたい」と話していました。

REPORT ⑤

遊休施設を活用し竹肥料づくり 地域資源で安心安全な農産物を



▲竹チップを機械でパウダー状にすりつぶす

市の遊休施設を活用して地域活性化を図ろうと、比和町の服部産業株式会社が、木材工芸品加工施設「いざなみ工房」で竹肥料づくりを始めています。この竹肥料は、竹を2～3センチほどのチップにした後、特殊な機械でパウダー状にすりつぶし、1～2カ月山積みにして自然発酵させたもの。30*1,890円で販売し、県内からの注文や問い合わせが相次いでいます。

服部稔和社長は「竹肥料を使った作物は病気になりにくいなどの効果がある。地域資源である竹を有効活用し、安心安全な農産物づくりに貢献していきたい」と話していました。

「いざなみ工房」は、木材工芸品の販売低迷により平成18年4月から休止していました。

「世界一のもちつき」が復活 総領おいでん祭

REPORT ①

3年ぶりとなる「総領おいでん祭」が10月4日、総領健康福祉センター前芝生広場などで開催され、約5千人の来場者でにぎわいました。

この祭りの風物詩となっている「世界一のもちつき」では、直径2.2*、高さ2*、重さ3.5*の臼で、一度に150*のもちを40人がかりでつきました。見物客は「よ



▲もちを切り分けフライパンで運ぶ



▲特産品を販売

いしょ」のかけ声で振り落とされる、長さ7*の杵の迫力を楽しんでいました。つきあがったもちは、約2千個の丸もちにして、振る舞われました。

会場には、各自治振興区や地元団体による地域特産品の販売が行われたほか、健康や遊びに関する多彩な催しが行われ、総領町の魅力を発信しました。

ステージでは、演歌歌手の大江裕さんなどの歌謡ショーや、地元団体による芸能発表で盛り上がりしました。

REPORT ②

地域のみのりが大集合 西城ふるさと祭・庄原みのりの祭典'21



▲歌謡ショーを楽しむ大勢の人

西城の秋を彩る「第30回西城ふるさと祭」が10月17日、18日の両日、西城球技場で開催され、2日間で約6千人の来場者でにぎわいました。

2年ぶりに開催される今回の祭りは、「みのりの祭典'21」との合同開催で、会場には町内外から50団体が野菜や果物、農産加工品、和牛の焼肉などの特産品を販売。来場者は地元の各グループが工夫を凝らした

産品に舌鼓を打ったり、両手いっぱい購入したりしていました。

ステージでは、町内の保育所、小学校の児童によるダンスや鼓笛隊、和太鼓演奏、よさこい踊りや西城川太鼓、西城ブルーハーモニーの演奏、演歌歌手の多岐川舞子さんの歌謡ショーなどで盛り上がりしました。

この祭りにあわせて会場内では西城地域の自治振興区対抗スポーツ大会も行われ、子どもからお年寄りまでが参加して大縄跳びや玉入れ競技で熱戦を繰り広げ、拍手と歓声が響きました。



▲自治振興区対抗の大縄跳び



REPORT ⑨

清掃奉仕で美しい上野総合公園に 庄原ライオンズクラブ・庄原市シルバー人材センター

健康づくりや憩いの場として利用されている上野総合公園で、市内2団体が清掃活動を実施しました。

庄原ライオンズクラブ(会長:東泰治)は10月14日、会員35人が参加して弁天島を中心に草刈りなどの清掃作業に汗を流しました。ライオンズクラブは、毎年10月8日を「ライオンズデー」とする全国的な奉仕活動を実施しており、上野総合公園では昨年に引き続き2回目の清掃奉仕となりました。

10月17日には、庄原市シルバー人材センター(理事長:伊藤昇)が、上野総合公園の県道沿いを中心に清掃作業



▲草刈り作業に汗を流す
庄原ライオンズクラブの皆さん



▲作業に励むシルバー人材センター
会員の皆さん

を実施しました。シルバー人材センターは、10月を「シルバー人材センター事業普及啓発月間」とし、また10月第3土曜日を「シルバーの日」として全国一斉に奉仕活動に取り組んでいます。参加した会員90人は、ゴミを拾ったり、落ち葉などを掃き集めたりしました。

公園を管理する都市整備課の清水健治課長は「今回の2団体をはじめ、日ごろから地元の方にボランティア清掃していただき、多くの方に気持ちよく利用していただける」と感謝していました。

歌や踊りの楽しさを体験 三日市保育所でミュージカル

REPORT ⑩

歌や踊りの楽しさを体験する「ミュージカルひろば」が10月9日、三日市保育所で開かれ、三日市と庄原北保育所の園児約100人が参加しました。

庄原こどもミュージカルの指導者たちは、歌や踊りや劇を披露しながら、子どもたちを自然とミュージカルの世界に引き込み、一緒に歌ったり、踊ったり、ミュージカルの楽しさを伝えました。最後は「怪獣のバラード」を全員で踊り、体いっばいに楽しさを表現していました。

指導した増田明さんは「ミュージカルで、子ども本来の生命の輝きを引き出すことが狙い。のびのびと歌い踊ることで、優しい心、しなやかな体を育むことができる」と話していました。



▲一緒になって歌い踊る園児

REPORT ⑪

「桜巡り」切手で庄原市をPR 郵便局会社が地域振興策



▲「観光客増が期待できる」とお礼を述べる滝口市長。
1シートに80円切手10枚が入り1,200円で販売。

切手で地域振興を図ろうと、郵便局株式会社中国支社が、庄原市の桜の名所を題材にしたオリジナルフレーム切手を作製しました。

このフレーム切手は「庄原桜巡り」と題し、桜町の桜並木や千鳥別尺山桜など市内8カ所の写真で構成。来年1月8日まで、庄原市をはじめ県北の73郵便局で1千部販売されています。

販売初日の10月9日には、庄原三日市郵便局の飛谷真良局長など関係者4人が市役所を訪れ、滝口季彦市長や市観光協会連合会の塩本誠二会長、桜の写真を提供した田辺裕二さん(東城町)の3人へ、オリジナルフレーム切手を贈呈しました。

REPORT ⑥

他人事じゃない！乳がん検診受けて ピンクリボンキャンペーンin東城



▲「明日はきっといい日」～私とあなたの大切な人の命を守るために～と題して中川さんが講演

友の会代表の中川圭さんは、自身の乳がん治療体験を交え、乳がん患者の苦悩や葛藤、支え合うことで生まれる

乳がんの早期発見・早期治療の大切さを訴えるピンクリボンキャンペーンの講演会が9月24日、東城支所で開催されました。

強さ、そして乳がん検診の重要性と早期発見・早期治療を訴えました。大切な友人を乳がんで失った悲しみを語られた場面では、会場が涙に包まれました。

参加者は「再発の不安を抱えながらも、未来を真っ直ぐ見つめる中川さんの表情に、私たちにもできることが必ずあると強く胸に込み上げるものがあった」と感想を話していました。

この講演会は今回が初めてで、東城町の女性グループを中心としたプレストケア・ピンクリボンキャンペーンin東城実行委員会などが主催。また、10月25日の「ふれあい東城まつり」の会場で、市内在住の女性50人を対象に「マンモグラフィー乳がん検診」が実施されました。

1万個の積み木で遊ぼう 峰田保育所「積み木ワークショップ」

REPORT ⑦

峰田保育所が9月9日、童具館創造アトリエ認定講師の豊田利幸さんを迎え、「積み木ワークショップ」を開きました。

子どもたちは、1万個の積み木を見て大喜び。豊田さんが「みんなでまちをつくろう」と呼びかけると、縦に高く積み上げたり、横に広げたり、想像力豊かに積み上げました。30分もすると、高いタワーやビル、道路などが姿を現し、教室全体に一つのまちが完成しました。

積み木遊びは、自分の思い描く形のものを積み木で作ることによって、自己の目標を実現するための創造性や表現力を高める効果があると言われています。椿智枝所長は「1万個の積み木で子どもたちが本当に生き生きとしていた。園児にとって積み木遊びや水遊び、



▲積み木のまちづくりを楽しむ園児

砂遊びなど、遊びきることが大事。これから人も人とのつながりを大切にして、地域と一緒に子どもたちを育成していきたい」と話していました。

REPORT ⑧

いつまでもお元気で！長寿を祝う 口南小が敬老プレゼント



▲メッセージカードとプランターを贈る児童

敬老の日にちなみ、口南小学校児童会の4人が9月28日、口和町の特別養護老人ホームハートウイングとケアハウス永楽荘を訪れプレゼントを贈りました。

白根雄太くん(6年生)が「いつまでも元気で長生きしてください」と、入所されているお年寄りに児童手づくりのメッセージカードとマリーゴールドのプランターを手渡すと、「子どもたちに長寿を祝ってもらえてうれしい。これからも元気に過ごしていきたい」と喜びました。

口南小学校では、日ごろから交流を深めているお年寄りが元気で長生きをしてほしい、きれいな花を見て楽しんでほしいと毎年プレゼントを贈っています。